



『北海道総合開発計画と道南地域』



函館開発建設部

部長 木村 邦久氏

このほど、法人会会員の企業オーナーになんらかの参考になればということで、函館開発建設部部长木村邦久氏より「北海道総合開発計画と道南地域」という新年の所感がよせられました。

新年明けましておめでとうございます。日頃から、函館地方法人会の皆様には、函館開発建設部の事業実施にあたり、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年を振り返ってみますと、管内では、函館開港150周年を記念して、様々な事業が行われ、新たな歴史への一歩を刻みました。当部でも港の施設とその役割について理解を深めていただくことを目的として、みなと見学会及びパネル展を実施いたしました。また、昨年3月には、函館新外環状道路（空港道路）が着工し、11月には、函館江差自動車道北斗富川ICが開通の運び

となりました。一方、7月の記録的な多雨、冷夏があり、道南地域にとってはやや天候に恵まれない1年となり、農作物のほとんどが不作となりました。また、管内の経済・雇用情勢は、観光客の入り込み数の減少などにより依然として厳しい状況が続いています。

函館開発建設部の事業

函館開発建設部は、渡島・檜山の道南地域において、北海道開発局の現地機関として、道路整備、治水、港湾整備、空港整備、水産基盤整備、農業農村整備などの公共事業を実施しています。道路事業では、より安全で一刻も早い救急搬送を可能にするともに観光客の増加・物流効率化を図るため、高規格道路（函館江差自動車道・函館新外環状道路）の整備を進めています。治水事業では、水災害のない安全でゆとりのある社会基盤の形成を図るとともに、豊かな自然を活かした个性的な地域づくりを目指して、国土交通省が行っている全国一級河川の水質調査で過去に何度も水質日本一になっている日本有数の清流河川である後志利別川

の整備を進めています。港湾事業では、ネットワーク機能の強化、地域の活性化や安全・安心な暮らしの実現を目指し、国際貿易や国内物流拠点としての

域の発展を支えるものでなくてはなりません。そのためには、地域の特徴を把握し、将来を見通すことが必要となります。

島では1980年のピーク時から約6万人、12.0%、檜山では、1960年のピーク時から約5万人、50.5%それぞれ減少しています。

の23.3%です(66億円)。渡島平野は、北海道水田発祥の地ですが、米の生産額は65億円で農業産出額の13.4%となっています。

港湾機能の充実、地域生活基盤の充実などに向けた整備を進めています。空港事業では、函館空港の老朽化した工

と呼ばれる北海道において、松前藩の城下町松前、交易の拠点となった函館、江差と北海道の中心となっていました。明治以降は、行政の拠点が札幌に移つたものの、その後も函館を中心に発展

さらに、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2005年から2035年までの30年間で全国の人口が13.4%減ると予測されていますが、この間に北海道の人口は、21.6%の減少が見込まれ、道南地域では、34.0%の減少が見込まれています。この人口の減少とともに高齢化も一層進むこととなります。

工業出荷額は、4,110億円(2007年)で、道内シェアが7.2%となっています。内訳を見ると、食品が2,044億円と出荷額の49.7%を占め、道南工業の中心を占めています。食料基地としての役割を道南が果たしていることがわかります。食料品以外では、窯業・土石が出荷額43億円、道内シェア20.2%となっているのが特徴です。

形成等を目指した漁港の整備を進めています。農業農村整備事業では、大野平野地区において、老朽化した施設を再編整備し、農用水を安全かつ安定的に供給することにより、地域農業の生産性の向上と経営の安定を目指します。また、今金地区において、区画整理を柱とした農地再編整備事業の実施

地域の面積は、6,566平方kmですが、そのうち耕地面積は約7%に過ぎず、山林が81%を占めています。人口は、約49万人で北海道の人口の8.8%を占めています(2005年国勢調査)。

次に産業の特徴を見てみます。道南地域の1次産業の出荷額は、農業産出額が48億円(2006年)、漁業粗生産額が536億円(2007年)となつています。これらは、それぞれ道内生産額の4.6%、18.5%を占めており、特に漁業のウエイトが高いことが特徴となっています。

商品販売額は、1兆1,366億円(2007年)ですが、道内シェア6.4%と人口比の約7割の水準にとどまっています。さらに、道南地域では、観光が産業の大きな柱となっています。入込総数が、1,085万人(2008年)と道内の人込総数の8.2%を占めています。このうち、道外客が499万人で道

道南地域の特徴

函館開発建設部で実施している社会基盤整備事業は、地域に適合した、地

人口に関しては、今後の急激な減少と高齢が予想されています。既に、渡

農業では、産出額が多いのは、野菜の127億円、道南シェアが高いのは、豚

道内の人込総数の8.2%を占めています。このうち、道外客が499万人で道

内シェア11.9%と道外客が多いことが目立っています。また、ブランド総合研究所による地域ブランド調査の結果では、函館市が初の1位となり、今後の観光客入り込みに期待がかかります。

このような道南地域の自然条件、社会経済活動の特徴をとらえ、地域の活性化、発展に貢献し、安心して暮らしていただけよう陸海空一体化した交通ネットワークの整備、食糧供給の生産性向上と安定化のための農業・水産基盤整備、安全で豊かな生活を守るための治水事業を函館開発建設部では実施しています。

北海道総合開発計画

函館開発建設部で担当している社会基盤整備事業は、それぞれの事業の完成までに長い期間と多額の費用が必要なものばかりです。このため、長期にわたる安定的な「計画」と「事業費」の確保が不可欠です。

その基礎となっているのが、「北海道総合開発計画」です。これは、北海道開発法第2条第1項に基づき国が樹立する計画（閣議決定）であり、政府

公共部門における施策実施の基本となるものであり、今後の北海道開発の向かうべき方向と施策の方針を示したものです。

政府は、昭和27年（1952年）の北海道開発第1次五か年計画を皮切りに6期にわたる計画を経て、平成20年7月、「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」を閣議決定しました。

この計画のもと、函館開発建設部は、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、今後とも、安全で安心な暮らしと地域の活性化に貢献する事業を着実に職員一丸となり推進していく所存であります。

最後に、函館地方法人会のますますのご発展と会員各位のご活躍とご健勝を心から祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



新年交礼会のご案内

法人会では、今年尚、一層の充実を期待いたしまして、来る1月18日（月）に下記の通り「新年交礼会」を開催いたします。「新年交礼会」では福引抽選会のほか、盛りだくさんの企画をご用意しております。

つきましては、時節柄何かとお忙しいこととは存じます、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいませようご案内申し上げます。

- 日 時 平成22年1月18日（月）午後6時～
- 場 所 ホテル函館ロイヤル
- 会 費 6,000円
- お申込方法 1月12日（火）までに
法人会事務局まで、お電話、FAXにて
お申込み下さい。



（社）函館地方法人会 TEL 26-9369 FAX 23-7655

※ 会費につきましては、当日会場にてお支払願います。